

垂直離着陸輸送機MV22 オスプレイの不時着事故に関する抗議決議

米軍普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機MV22 オスプレイが、13 日午後 9 時半頃、名護市安部の沿岸部で不時着した報道があった。機体は折れ、大破するという激しい事故であり、県民の命が奪われかねない事態であった。乗員は 5 人で、2 人がけがをしたもようである。MV22 オスプレイは試作段階を含め少なくとも 37 人が死亡し、25 人が負傷している。

沖縄県民は 2012 年 9 月にオスプレイ配備反対の県民大会を開催し、2013 年には、県内 41 市町村の首長や議長らが署名する「建白書」で日米両政府に訴えてきた。県民に知らせないまま配備を強行し、事故を起こしたことは県民の命を顧みない横暴な行為であり、断じて許されるものではない。

本市においては、保育所、学校、病院の上空も昼夜を問わず危険な低空ヘリモードで飛んでおり、市民の命が危険にさらされ、平穏な生活が脅かされている。

よって、本市議会は、市民の生命、財産、安全を守る立場から、米軍及び関係当局に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

記

- 1 事故の原因究明を徹底して行い、その内容を県民に公表すること
- 2 沖縄におけるオスプレイの飛行訓練を中止・撤去させること
- 3 実効性のある再発防止策を講じ、全軍に徹底すること
- 4 市民の生命と人権を守るため「日米地位協定」を抜本的に改定すること

以上、決議する。

平成 28 年 12 月 20 日

沖縄県浦添市議会

宛先

在日米国大使 米太平洋軍司令官 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事 海兵隊普天間航空基地司令官